

## 8月11日(水) 下界は晴れ

ツイルマットの一つ手前の駅(テーシュ駅:4000台の駐車場)からシャモニまでバス移動。小雨のぱらつくシャモニに到着後、007の映画で有名な70人乗りロープウェイを2回乗り継ぎ、富士山より高い3800m以上の頂上展望台へ。一気に昇る角度のすごいこと、信じられない位の速さと高さ。タッチの差でお母さんと別の箱に別れ別れになり、先行して出発するが中間乗り継ぎ駅で追いつかれ、銀色の変なサングラスを渡される。

みんな**皆既日食**を見に昇っていることに気づかされる……だから混んでいたのか。

展望台出口では、外の天候が悪く、トンネル内で足止めを食うが、しばらくして日食の始まった鉄橋デッキ部に出してくれる(このデッキの下も目も眩むような高さ)

標高3842mの高度の為か、少しふらつく気がしたが、屋上の展望部でカスミの合間に**皆既日食**に出会えた。

右の写真は、消え入りそうになった太陽。この後更に皆既状態に近づく



この展望台にいる間に日食に出会えるとは本当にラッキー。

ロープウェイに乗っている時間や、建物内で順番待ちしている時間帯なら不可能だったのだから……。

このツアーは偶然の日食遭遇だったので、かなり感激・興奮状態。みんな銀色の特殊めがねで見上げまくっていた。

ヨーロッパの高さを誇るモンブランは、流れる雲間にかすかに見え隠れするだけで、遂に全景を望むことはできなかったが、日食とモンブランで忙しいことこの上ない。あっという間に滞在時間は過ぎてしまう。

この日は行けなかったが、展望台の更に上にあるロケット展望台の威容や、前方の岩山にかすかに見える展望台など、ものすごい所にロープウェイを上げたものだし、一面真っ白の岩山の頂上に、よくもこんなすごい展望台を築いたものだと思ってしまう。

小さい頃にかすかに記憶のある日食(部分日食だった)にも、不思議な感動を覚えながらビデオにしっかり収めることができた。

このビデオを、横の若い外人達が見せてくれということで、みんなが覗き込んできた。

スイスのテレビクルーも横から眺めていて、なるほどというような顔で感心していた。危うくインタビューを受けそうになったが、ガイドの川島さんがドイツ語で受け答えに応じてくれる。

あれだけ距離の離れた太陽を、こんなハンディビデオ(シャープの液晶ビューカム)で、画像を静止して捕まえるのは本当に難しいのだ。

夜の食事は、ホテルの外の中華料理店で、久しぶりに満腹、満腹。

ホテルでテレビをつけると、日食の中継風景をやっており、各地で興奮 島倉千代子だった。